

（午前9時30分 開議）

○議長（土井裕美子君）皆さん、おはようございます。

ただ今の出席議員数は18人で全員であります。

○議長（土井裕美子君）これより本日の会議を開きます。

#### 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（土井裕美子君）これより日程に入り、日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において5番 板橋さん、10番 高本さんの2人を指名いたします。

#### 日程第2 一般質問

○議長（土井裕美子君）日程第2 一般質問を行います。

順番7、13番 田中さん。

〔13番（田中博晃君）登壇〕

○13番（田中博晃君）おはようございます。

2日目トップバッターとして頑張らせていただきます。

内容については昨日の17番議員と一部かぶるところもあるかと思いますが、私がそれ、岡議員をリスペクトしているということで、ご容赦いただきたいなと思います。

それでは、通告に従いまして、一般質問を行います。

本市のデジタル化について。

業務の簡素化や行政のデジタル化に加え、マイナンバーカードの活用など、市民と行政との利便性の高いデジタル社会の構築などの

対策について、近い将来、デジタル庁より各自治体に方針が出されると私は考えています。

行政内の業務改善、デジタル化することによるサイバーセキュリティの問題など課題も多い中、本市でも来る日に備え、窓口業務の混雑緩和や各種手続きの簡素化のための調査や準備をしなければならない。

例えば、現在本市が取り組んでいる需要回復対策助成金の申請においても、市内事業者の方より、メールで申請できればありがたいなどの声が寄せられている。また、施設の使用申請なども同様である。

本市では道路の修繕が必要と思われる箇所等の情報をLINEで収集しているが、奈良市ではLINEを活用した国民健康保険手続きを開始している。

また、本市の事業や施策、観光等のPRについて、今まで以上に動画による画での訴求のために、インターネットの活用が必要となってくる。

橋本市公式チャンネルの動画には5,000再生を超えているものもある。また、他の自治体では見たことのない風疹対策の動画もアップされている。

今後、オムレツの動画等のアップも予定されていると聞く中、閲覧数を増加させ、本市についてもっと知ってもらうために戦略が必要と考える。近隣市では、人気アニメを活用した観光資源の発信においてSNSやメディアを活用しており、その効果は計り知れない。

そこで、今後のデジタル化全般に鑑み、以下の内容を問う。

1、デジタル化を見据えた様々な業務の簡素化について、現状、どの程度調査しているのか。

2、メール等による各種手続き等について、システムの構築をしなくても対応できるものから進めてほしいが、本市の考え方は。

3、事業や施策、観光等の発信について、SNSの活用やメディア戦略についての考え方は。

4、ユーチューバーやティックトッカーなど、インフルエンサーやクリエイターとの提携について、本市の考え方は。

以上、明確な答弁よろしくお願いいたします。

○議長（土井裕美子君）13番 田中さんの質問、本市のデジタル化に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（小原秀紀君）登壇〕

○総務部長（小原秀紀君）おはようございます。

本市のデジタル化についてお答えします。

まず、一点目の、デジタル化を見据えた業務の簡素化に関する調査状況についてのおたただしですが、電子申請などのデジタル化に向けた業務の簡素化を実施するため、本市が受け付ける様々な申請手続きについて、まずは押印を廃止することが可能な申請手続きの洗い出しを実施しています。

また、おただしにもあった施設の予約については、利用率の高いスポーツ施設や文教施設に対し、空き状況の検索や予約ができるシステムの導入が可能かどうかの調査を実施しています。

その他、インターネットを用いた電子入札の導入についても検討を進めています。

次に、メール等による各種申請手続きについて、システム構築などが不要なものからすぐに対応してはどうかのおたただしですが、現在、本市では子育て講座の健診などへの申込みにおいて、市のホームページの定型フォ

ームやメールでの受付も一部実施しています。

しかしながら、手続きの際に本人の確認が必要なものや、自署、記名押印が必要なものについては、メール等による手続きが難しいのが現状です。

さきのご質問でもお答えさせていただきましたとおり、現在、押印を廃止することが可能な申請手続きの洗い出しを実施しており、その過程において押印の廃止が可能と判断されたものについては、関係各課で協議した上、メール等による手続きが可能か検討してまいります。

○議長（土井裕美子君）総合政策部長。

〔総合政策部長（上田力也君）登壇〕

○総合政策部長（上田力也君）おはようございます。

次に、三点目の、事業や施策、観光等の発信について、SNSの活用やメディア戦略についての考え方にお答えします。

市では現在、フェイスブックやインスタグラム、ツイッター、LINEを活用し、子育てやイベントなどの行政情報や緊急情報、また、食や伝統風景など橋本の魅力を発信しています。また、映像と音声で橋本の魅力をお知らせするため、ユーチューブに橋本市公式チャンネルを開設し、市が撮影、編集した動画を配信しています。

これらのSNSやユーチューブは即時性や拡散力があることから、情報発信のツールとして非常に有効であると考えています。

フェイスブックは秘書広報課から行政の情報を中心に発信しており、年間約80件から100件の各課からの情報を公開、ホームページから連動することを合わせると、年間約650件を発信しています。

また、行政情報だけでなく、いきいき学園写真倶楽部とコラボし、同学園の写真倶楽部の皆さんが作成された写真を解説とともに掲

載しています。

また、インスタグラムでは市からの発信のほか、和歌山信愛女子短期大学の学生によるはしもとインスタ女子部が自分たちの目線で捉えた本市の魅力を発信してくれています。

このように、地域や年齢層を問わず、それぞれの視点や感性において発信される写真や映像は魅力的なものが多く、行政の情報発信とは違う味わいがあります。

議員おただしのSNSの活用やメディア戦略については、本市のSNSやユーチューブに掲載する写真や画像が多くの人目に留まり、注目され、話題となることが重要と考えています。

また、SNSなどの即時性を生かすためにも、季節や時事にタイムリーな情報を時間をかけずに発信できるよう、各部署の積極的な取組みを促していきたいと考えています。

拡散や口コミにより面白いと感じていただき、閲覧や再生回数が増え、さらに拡散されるよう、継続的に魅力ある情報発信に取り組んでまいります。

次に、四点目の、ユーチューバーやティックトッカーなどインフルエンサーやクリエイターとの連携について、本市の考え方についてお答えします。

今年度、大阪芸術大学と嵯峨谷「縁」の会、和歌山県及び本市の4者が覚書を締結し、学生たちの若いアイデアと感性によって地域の課題解決や活性化を図るとともに、移住者や交流人口が拡大するようプロジェクトを進めています。

学生たちは嵯峨谷の生活の様子を伝えるドキュメンタリーの制作や地域に伝わる神踊りの映像化を行い、新たに開設するユーチューブチャンネルにおいて発信するための取組みを進めており、クリエイターとしての活動をしていただいています。

また、今後の観光振興アドバイザーをインフルエンサー的な存在として、情報発信にご協力いただく取組みも検討しているところであります。

一方、庁内において若手職員を中心とした情報発信のための研究グループを立ち上げ、新しい世代の柔軟な発想と情報収集力を生かし、魅力的な情報発信を創造するための体制づくりを行いたいと考えています。

おただしのユーチューバーやティックトッカーなどとの直接的な連携については現時点で考えていませんが、今後、この研究グループからの声も聞きながら、連携の必要性についても考える必要があると思っています。

いずれにせよ、このような情報発信を積み重ねることで、地域のファンが増え、交流人口の拡大が期待できると考えます。

それぞれの地域には、先人から受け継いだ歴史や文化、味わいなど、長い時間の流れの中で積み上げてきた魅力があります。一方、この時代ならではの人気を博する話題性のある魅力もあります。

いずれもタイミングを逸することがないように常にアンテナを高く張り、情報の収集と発信に努めてまいりたいと思います。

○議長（土井裕美子君）13番 田中さん、再質問ありますか。

13番 田中さん。

○13番（田中博晃君）答弁ありがとうございます。

それでは、再質問させていただきます。

先ほど総務部長のほうから答弁いただきました。私が思っている以上のことをやってくださっているというのはよく分かりました。

私の質問はもっと手前の部分で、やっぱりメールとかを活用してということになるんですけれども、先ほど、これ例え話なのでそこは答弁求めないですけれども、需要回復対

策助成金の話も壇上でさせていただきました。

やっぱり、当初というのか、始まって当初、どうしても人が増えてしまうという部分で、やはり市内の事業者さんから、行っても結構時間待ちがあったとか、メールでできたほうが、やっぱり日々の業務に、行ってすぐ申請できるんならいいんですけれども、やはり書類等々のチェックもあったということで、今後、橋本市が様々な、助成金、補助金もありますけれども、申請というのを受け付けてくる中で、今、もっと手前でもっと簡単にできる部分、本人確認も要らん、自署でなくてもいいよというものもあるかと思うんですけれども、その辺りから進めて、メール等による申請も進めていってほしいと思うんですけれども、その辺りについて、いかがでしょうか。

○議長（土井裕美子君）総務部長。

○総務部長（小原秀紀君）先ほども答弁しましたけれども、押印とか署名の必要な書類、そういう申請等につきましては、現在、講座等の受付等でも定型フォームでありますとかメール等により申込みを受けておりますので、そういった内容を精査して、こちらの審査とかそういうものが複雑でないものについては、できるだけそういったメール等で対応できるように、今後、各課にも周知していきたいというふうに思っております。

○議長（土井裕美子君）13番 田中さん。

○13番（田中博晃君）ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

例えば定型フォームなんかでやった場合、エクセルで使って作るのはそんな難しくないですし、作った後にすぐ集計できるというメリットもあるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

施設の貸出等についても、今、検討してくださっているということで、高野口町時代がそれやっていたので、システム要る要らんと

いうのはありますけれども、そこもできるだけ早く導入を進めてほしいと考えております。

市の施設、市ではないんですけれども、例えば文化スポーツ振興公社で施設の貸出をやっているときに、月初、月頭って相当の人数が並ばれています。そういうのももしかしたら話し声が近隣の方に迷惑とかという声も上がるかもしれへんので、よろしく願いいたします。このあたり答弁は結構です。

続きまして、事業や施策の発信というのか、SNSとかという部分なんですけれども、私が一番今やっていただきたいと思うのは、先ほども助成金の話をしましたけれども、取扱説明書的な動画配信というんですか、どうしても窓口へ行って説明するというのも出てくるかと思えます。それを少しでも簡素化するために、やはりトリセツ的な動画配信というのは必要なのかなと。

例えばなんですけれども、国の需要回復対策助成金というのは公式動画で申請方法というのを上げてくださっていました。恐らく議員の皆さんも、ちょっと手伝ってと言われたときに、それ見ながらやった方も多いんじゃないかなと思うんですけれども、そういうのもある中で、例えば書類の作り方、書き方等も、今後、動画で発信したほうが、もしかしたら窓口へ来る人がちょっとでも減るかもしれへん、混雑も緩和される、業務も減るかもしれないという観点でお伺いいたします。

○議長（土井裕美子君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）それは議員おっしゃるとおりだと思っております。やっぱり時代とともに申請なりの在り方というのは変わってきているというふうに私ども認識しております。そういう意味で、そういう手続き的なものを、動画配信を見て、そうすることによって窓口業務の混雑化が軽減できるといようなことにもつながってくると思いま

すので、そういうふうな方向で進めていくべきであろうというふうに思っております。

○議長（土井裕美子君）13番 田中さん。

○13番（田中博晃君）よろしく願いいたします。

多分、僕らもそうですけれども、例えばパソコンの接続どうしようか、設定どうしようかというとき、結構、動画を見てすることが多いので、やはりもうそういう時代になってきているというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

次の質問に移ります。

写真をお願いしてよろしいですか。こちら紀の川市の写真なんですけれども、これ恋の柱という写真です。これ紀の川市にある平池公園というところなんですけれども、こちらはもともとイルミネーションでハートの形とかを作って、カップルとかが来て写真撮って、ばえるポイントにしようということで作られていたというふうに話を聞いております。

そんな中で、やっぱりコロナ禍ということもありまして、イルミネーションも撤去した。そのときに市の職員からの発案で、紀州材を使ってこの恋の柱というのを作ったと。自分たちで作ったと。これあくまでイメージ戦略です。

実際、これ平日、月曜日やったかな、行ったときが、こうやって見に来られている方もいらっしゃいますし、また、こちら甘露寺前という駅があるんですけれども、こちらはの方々も月曜日でお仕事休みということでお話を伺ったら、紀の川市のその辺りを見に来たんやと。こういうおみくじがあるということです。

何でこれをやったかというのは続きがありまして、すぐ近くに甘露寺というお寺があります。それがこれです。これ紀の川市から頂いた公式の写真なので、顔とかが映っても大

丈夫というふうには聞いております。

もうこれで、甘露寺ということに分かる方は分かると思うんですけども、「鬼滅の刃」ともろにかぶるという部分で、コスプレイヤーが今来られているということです。

それだけじゃなくて、さらに追加してやったことが、今、紀の川市が動画でいろいろPRされているんですけども、難波とか梅田というふうには聞いているんですけども、三つの映画館の「鬼滅の刃」が始まる直前の15秒間、CM枠を買い上げて、そこで「かんろじまへのひ・み・つ」という動画を上げていきます。そこには「鬼滅の刃」のことは一切出ていないんですけども、それである意味、あ、何かあるかもしれないというのをあおっているのかなというふうに考えております。

次の写真です。こちらが奈良市の柳生の写真で、これも同じく「鬼滅の刃」です。これ、この後、葛城市の写真入るんですけども、もともとこれが去年の暮れ、今年の頭ぐらいかな、結構有名になったところで、その後、奈良県葛城市なんですけれども、市の職員が近所にこういうのはないかなと調べたところ、すぐ近くに葛木坐火雷神社というのがあると。

偶然にもこのコスプレイヤー、我妻善逸君の格好をやっているんですけども、この人の技というのか大技が、見にくいかな、火と雷と神とあるでしょう。これが「鬼滅の刃」に出てくる技なんですよね、この吾妻善逸君のやっている。偶然にも。火雷神という技があって、これ使えるんちゃうかと。これも職員の発案です。これ使えるんちゃうかということで写真を撮って、こういった写真を撮られて、それが何と市の広報の表紙を飾ったと。

これももう8月号の広報なんですけれども、何でかというたら、10月になれば「鬼滅の刃」が公開される。ということは、それまでにこ

ういうのを発信しておけば、何かひっかかるんちゃうんかということで、これはメディア戦略というふうにおっしゃっていましたが、実際にこれを出したことでメディアが勝手に取り上げてくれた。ヤフーニュースのトップにもなった。さらに、コスプレイヤーが来てSNSで発信をしてくれている。実際、神社の絵馬なんかでもこんな感じです。見にくいかな。ほぼ「鬼滅の刃」です。

僕は「鬼滅の刃」をやってくださいというのではないんです。「鬼滅の刃」をやってくださいというのではないんですけれども、こうやって考えてやって戦略やっているというのと、私がこういう情報を持って葛城市に聞きに行ったときに、担当課の職員がおっしゃったのは、こうやって橋本市から来てもらったということは、私も、私自身ね、私が葛城市さんの戦略にかかっているんやでと。こうやってやることで情報を、橋本市でうちの情報を発信してくれるというのがあるんやと。

さらに、両市ともおっしゃっていたのが、近隣のお店の売上げはやっぱり上がっていると。特に土日はすごい人が来る。さらにおっしゃっていたのが、市のホームページとかも結構見てもらえるようになったので、ふるさと納税の閲覧数が増えたりもしたと。お金が増えたかどうかは分かりませんが、少なくともそういうのがある。

これがある意味、他力本願という言葉はおかしいかもしれないですけども、うまいこと情報を発信した結果ということですよ。

ちょっと古い話なんですけど、「君の名は。」、昨日も17番議員おっしゃっていました。この糸守町役場という絵が出てくるんですけども、その役場のモデル、どこかって知っている方もおると思うんですけども、皆さんも行ったことがあるかもしれません。かつらぎ町役場です。これが使われている。

ということは結局、かつらぎ町の役場はまた別なんですけれども、特に紀の川市、葛城市はやはり情報を収集して発信して、素早く打ち出していているというのがこの結果かなと。橋本市にそういうところがあるかないかは別として、そのスピード感というのはすごい参考になるのではないかとというふうに考えております。

紀の川市でさらに聞いたお話なんですけれども、自分たちがこういう打ち出しをした結果、ラルクアンシエルのハイドさんがツイッターか何かで取り上げてくれて、その結果、1日で1万4,000件閲覧が増えたよ。こういうこともおっしゃっていました。

やはりこうやって、今回プロジェクトチームをつくってくださるということで、すごい市として思い切ったことをやっていただいて、逆に重荷になれへんかという心配はあるんですけども、そこで、どういった形でされるか分からんですけども、やはり重荷にならないような展開もお願いしたいと思うんですけども、その辺りについていかがでしょうか。まだできてないので答弁しにくいと思うんですけども、いかがですか。

○議長（土井裕美子君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）おっしゃるとおりで、やっぱり職員もやらされ感の中で業務として行うとする場合は、あまり思った効果が得られない可能性もあるんですけども、できるだけ、やっぱり希望する人、希望する若手に集まってもらって、その中でグループでいろいろ協議しながら、先ほどから、戦略的に成功している例もあるようなんですけども、そういったことも踏まえながら、割と自由な雰囲気やっていってほしいなというふうには思っております。ちょっと抽象的なんですけども、イメージとしてはそういうイメージを持っております。

○議長（土井裕美子君）13番 田中さん。

○13番（田中博晃君）よろしくお願ひいたします。

ほんまにこういうのって、ほんま簡単な発想から生まれたというのと、どちらもやはり若い職員の発想をすっと取り上げて一気にやった。特に紀の川市のCM、映画館でのCMは2週間でやり上げたというふうにもお話を伺ったので、やはりそういうスピード感というのが一番大切なのかなと、そういうふうに思っております。

そうやって考えていたときに、橋本市って聖地ってあるのかなと考えたら、今の段階ではさほどない、ほぼないということだと思います。ただ、よその地区では、いや、聖地はないけれども、例えばコスプレイヤーが来て、ここで写真撮れるよというようなことを発信しているんです。結果的に聖地化されている。

では、そこにあるのは何かと言ったら、着替える部屋だけ。それでも人が集まっている。これはこれをやってくださいというのはないですけども、そういうのも考え方としてはあるというのは披露させていただきます。

先ほど出させていただいた奈良の柳生の岩の写真、一刀石の写真なんですけれども、そこも観光協会ですけども、ここは人が増えてきたということで、民泊をやっている部屋をもうコスプレイヤーが着替える部屋としてもう、お金はもちろん頂いていますけれども、提供しているというのもあるし、それ以外の地区でコスプレイヤーが写真を撮るのに、もう一括して撮影スポットを紹介して、かつ撮影許可もそこで取っているという事例もあります。これもご紹介だけさせていただきます。

次に、和歌山県の観光振興実施計画という、こういうのがあるんですけども、こちらを見ていきますと、これは和歌山県としてですけども、インフルエンサーの考え方の部分

になります。

やはり、インフルエンサーとこれからどんどん協力していった情報発信をしてもらわんと、やはり一つの県だけ、うちやったら橋本市だけで情報発信するには限界があるということで、資料提供、情報提供を県をつながりのあるインフルエンサーであったりですかタレントに常にやっているというふう聞いてきました。

そこで、答弁であったんですけども、その辺りの情報発信の部分で、今、これからクリエイターとコラボしていく、インスタグラマーとコラボしていく予定やというふうにあったんですけども、現在までそうやって橋本市に関わりのある方に情報発信をしたりとかというのはやってきたのかなと。

恐らく市民の方の中にも結構ツイッターですごい人とかもいらっしゃるみたいですけども、そこはつながりは難しいかもしれませんが、現在そういった情報発信という部分で著名な方々にお願いしている部分があるのかどうか、教えていただきたいです。

○議長（土井裕美子君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）市として公式にやっているということではございません。

しかし、いろんな事業の中で、インフルエンサーなどに知り合う機会があるわけで、そんなときについては情報発信をお願いしたりと、そういったことはあるというふうには聞いておりますけども、公式的にこのインフルエンサーと何らかの契約してであるとか、そういったことはいたしておりません。

○議長（土井裕美子君）13番 田中さん。

○13番（田中博晃君）今それをやってくださいというのもおかしな話になってくるし、今後の考え方の一つとして、情報発信という部分では、やはりユーチューバーであったりインスタグラマーであったりという、いわゆる

インフルエンサーというのは発信力ってすごいですし、もちろん、これユーチューバーにお願いしたらお金がかかります。

だいたい登録者一人当たり0.2円ぐらいというふうには伺ったんですけども、そうしたら、50万人おったら100万円かという額です。これって単純に、例えば印刷物を作って配るのもそんな変わらないのちゃうのかなというイメージがありますので、あくまで今後の展開としてその辺りも入れていって、一つの材料として入れていただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

次、このポスターって皆さん見られたことがありますか。恐らく1階と2階の間にも張られています。これすごいですよね。何か書いていないんです。QRコードだけ。やはり気になってチェックされた方もいらっしゃるかと思います。

これは先ほど壇上でもお話しさせていただいた、風疹の動画の実はQRコードなんですけれども、これ見ていただいた方は分かるかと思うんですけども、国の公式になってもええぐらいの内容の動画になっています。

これ恐らく経済部の方と、あと市民病院のドクターが作られたんですけども、その辺りについて、動画配信とかの部分で実際どのような効果があったのかというのがもし分かれば教えてください。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）風疹ワクチンの啓発動画についてお答えさせていただきます。

今年3月議会において、議員のおただしにおいて私のほうで答弁させていただいた動画です。今年6月に完成しまして、7月1日よりユーチューブ橋本市公式チャンネルにて公開をさせていただいています。

周知については、現段階では、先ほど議員

がお示しいただいたポスターを近隣のJR駅、南海電鉄関係の駅、もしくは、市内主要公共施設、大型店舗という、ポスターをビラとともに掲示するだけの情報発信にとどめていません。

市民病院総合内科、橋本先生において、広告的なアイデアを基に作った動画における風疹ワクチンの受診勧奨の効果というところの調査をされている、研究をされているということです。

今回、コロナ禍において、ではその動画の閲覧についてどうであるかとか、それから、実際、本市において風疹ワクチンの受診状況がどうかというのは、健康福祉部いきいき健康課において橋本先生と情報を共有させていただいているんですが、昨年度の実績より増えている、もしくは、このコロナ禍においても病院へ行っていただいている方が非常に多いのではないかというような分析をしつつあります。

これについては先生の研究ですので、具体的なことは私から申し上げることはできませんが、非常に効果が高いというふうに思っています。

そういった中で、議員おただしのように、本当にこれ全国に発信してもいいのではないかというような内容であるというふうに私たちも考えておりますので、関係する機関と調整をして、何とか来年の1月に、改めて対外的に公表できるように準備を進めたいと考えています。

ただ、動画の内容については、シティセールス推進課もどっぷりと関わらせていただきましたので、動画にはシティセールス課の職員、それから、はしぼうもさりげなく登場させていただいて、本市のPRにも努めたいと、そんなふうに考えています。

長くなりましたが。



○議長（土井裕美子君）13番 田中さん。

○13番（田中博晃君）ありがとうございます。

ほんまにあの動画を見せていただいたら、市の結構ええところの動画を入れつつ、何で風疹の予防接種、年齢から言えば我々世代になるんですけども、せんなんのかというのもすごく分かりやすいですし、実際こういうのって、ほんまにこれ厚生労働省とかが公式動画にしたらええんちゃうんというぐらい分かりやすい内容なので。

今、部長答弁いただきましたけれども、実際そうやって広げていけば、すごいことになるんちゃうかなというふうに思っておりますので、今後を期待しておりますので、展開のほう、よろしく願いいたします。

もう一点、これも経済推進部になると思うんですけども、現在、オムレツ関係でもそういう動画をつくっているというふうに聞いております。それも近い将来配信されるのかなというふうに思いますし、また、例えばヘラブナ釣りであれば、釣り系、ユーチューバーの話、これはユーチューバーは例えば話ですので、釣り系ユーチューバーとかもあるし、例えば、今後、精進料理と考えたときに、では、仮に料理系のユーチューバーが使ったら、さらに発展するような気が私はしています。

実際、自分ら料理するときも見えてやったりという結構するんですけども、それをやってくださいというではないんですけども、そういった観点を担当課のほうで持っていて、将来、橋本市の産品であったり名所であったりというのをどんどん表に出していけば、僕も高野口で生まれ育って、恐らくこの先骨を埋めるまでこっちでおるから、どうしても、発信したいんや、ええところを見てもらいたいんや、でも、周辺の地域の方に迷惑になったらあかんけど、逆に止めるぐらいできたらええかなというふうに考えておるんで

すけれども、その辺りについての現状のお考えとかがあれば、お聞かせください。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）インフルエンサーというお話もありました。本市では観光振興アドバイザーとして、自転車業界で、アウトドアとか様々な業界で精通されています。平野由香里さんという方を観光振興アドバイザーとして委嘱させていただきました。

コロナ禍において、様々なイベント等で活躍いただく機会というのは、今年度、具体的にはならなかったんですが、彼女と様々な事業を協働しながら、来年度いろんな事業において情報発信がともにできないかということをお考えしております。

それから、聖地というお話がありましたが、本市ではやはりヘラブナ釣りの聖地というのは唯一誇れるものだというふうに思っています。今、隠れ谷池、それから、紀州へら竿のPR動画についても現在作成中でございます。

また、橋本オムレツにつきましても、それぞれ事業者の皆さんが協力をして、何とか飲食業界をこのコロナ禍においても盛り上げたいという、そういう思いの中で2本の動画を作成させていただいています。

本市在住の大学生から、何とか橋本を元気にしたいというようなご提案をいただきまして、その提案によって、今、一緒に取組をさせていただいています。12月中に公開させていただく予定です。

それから、ご提案のあった高野山麓精進野菜等、今後のPRにつきましても、まずは高野町において、宿坊等、寺院等で、本市が作った高野山麓精進野菜を使っていただくということに重点を置いています。

今、高野町と、それから高野町商工会といういろいろ調整をさせていただきながら、早かったら年明けぐらいから高野町の店頭で本市の

野菜を並べていただいて、宿坊等がそこへ買いに行っていたような、そういった実績をまず作って、それを今後、高野山麓精進野菜を食べていただきながらの活用というんですか、動画をいかに作るかというところが、昨日来のお話の中で私たちの一番弱いところですので、しっかりと若手職員からアイデアを頂きながら前に進めていきたいと、そんなふうに考えていますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（土井裕美子君）13番 田中さん。

○13番（田中博晃君）よろしくお願ひいたします。

また、画像をお願いします。これ田辺市の天神崎というところですよ。ここすごくきれいやでということ、実は私、市の職員から情報を頂いて、実際行ってきました。

要は、こういう景色も、聖地という言い方は変かもしれないですけども、人が集まることになる。これがもう太陽が落ちたとき。これ写っている2人は私が連れていった仕込みなので、特に問題はないです。どうしてもやっぱり被写体がなかったら、絵面という部分で要るので、これは連れていっています。

ただ、これ見てもらったら分かりますか。それを撮っている方々、これ平日です。これ平日なんですけれども、これだけの方が写真を撮りに来られている。

ということは、やはりそこに魅力がある。そこに魅力があるというふうに思えば、人は集まります。人が集まるというのはやはり、上手なのはうまいこと発信しているという部分なんですよ。

橋本市においても、僕は星の写真を撮るのが好きなので、よくいろんなところ、シーズンに入ったら、先々週ぐらいやったら、野迫川村に週に5回行ったりとあって、でも、みんな、えっ、あほちゃうかと思うかもしれん

けど、実際そういう方はたくさんいらっしゃるんです。ということは、情報さえあれば集まる。逆に、そこで情報収集するというのもあります。

橋本市でいけば、地域の方の迷惑になってはいけませんけれども、例えば、似賀尾池なんかやったらすごい星を撮るのもきれいですし、リフレクションと言うて水面に映る写真というのも、あそこもちょっとうまいこと風が当たらないところになっているので、そういうのも将来、迷惑にならない程度に生かしていけたらなというふうに僕は考えておりますし、またそういったところも一緒に頑張っていきたいなというふうに思っております。

さらに、発信という部分なんですけれども、以前、経済推進部のほうに、和歌山県紀の川市に在住している結構有名な漫画家がいらっしゃいます。この方をご紹介させていただきました。

その方が、実際、漫画書いていてアニメ化までされた方で、かなり有名な方なんですけれども、私ちょっと仲がよくて、紹介させていただいたんですけれども、これもこの人を使ってくれとかという話ではありません。

例えば、パンフレットとか、そういう市の何かの資料に挿絵的に使った場合、何かすごい、僕、夢広がるので、わくわくが止まらないんです。もしかしてどこでバズるやろうという部分で。

実際、ええか悪いかは別として、去年かな、和歌山市の広報紙でラルクアンシエルのハイドさんを使われました。広報紙は一瞬でなくなりました。南海電鉄も同じようにしてなくなった。実際、いまだに転売されているという状況なんですけれども、そのよしあしは別として、やはり注目を受けるという部分というのは、何が当たるか分からないというのがあります。

そこで、そういった、今後の話になりますけれども、うまく市と連携、これも情報収集、情報発信という部分でアンテナを高くということにつながっていくんですけども、そういった部分で、挿絵とか使ってみようとか、こういう方とというのも、今後の考え方としてはあるのかどうかという部分をお聞かせください。

○議長（土井裕美子君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）広い意味で、本市の総合計画においても、やっぱり市民とともに広報を戦略的に発信していくというような位置づけもある中で、役所だけではなくて、市民の方にもいろんな才能や能力を持った方もおられますので、そういった方と連携しながら、そういうデザインであるとかそういうものを一緒に考案していけるということはあるのかなというふうにも思っていますし、そのためにはやはり、高くアンテナを張っていくということが何より大事なことかなというふうにも思っております。

私、おただしの紀の川市の漫画家といいますがアニメ家というのはよく分かっておりませんが、また一度、どういうものなのかというのは拝見したいというふうには思っております。

○議長（土井裕美子君）13番 田中さん。

○13番（田中博晃君）ありがとうございます。

その方を使ってくださいという意味ではないので、そこだけは履き違えんといしてほしいんですけども、どこで何が当たるか分からないという部分の提案ですので、よろしく願いいたします。いつでも連れてきますので。

あと、結局、今までは紙媒体が中心だったのが、実際にパソコン等で動画を見る時代、そして、これからはモバイルが中心になってくる。実際、和歌山県がされているスタンプラリーなんかでも、全てモバイルを使うよう

になっています。

これは何でかというたら、その都度その都度情報収集できる。例えば、過去のスタンプラリーって、現地へ行って判こを押してもらって、例えば6個集まって送ってもらって、あっ、これだけの人が来たんやねというのが分かったんやけれども、今はそうじゃなくて、あっ、この地域が人すごい集まっている、この地域弱いというのが、その後の戦略的な発展になっていきます。

ですから、橋本市でそれをしてほしいというのではないんですけども、考え方の一つとしてそういうのも取り入れていただきたいというふうには思います。これは答弁結構です。

実際、私も先ほど星を見に行ったりということも言いましたし、また、前々から言っている聖地巡礼、相当行っています。アニメの聖地も行けば、ゴールデンボンバーが好きなので、そのPVどこで撮ったんやろうかということも見に行くんですけども、それって、行ったら人ってやっぱり集まっているんです。

私も行くだけじゃもったいないなと思って、時間があったり、相手がオーケー出たときに、そのまちの観光協会に寄らせていただいたり、また、担当課も寄せてもらうときもあります。

お話を伺えば、そういう観光協会であったり自治体も、やはり出していけるところはどんどん出していくところで、自分たちの知らないところでバズってくれる。でも、やっているのは、ただこういう情報発信しているだけやでというふうにもおっしゃってました。これが一番のほんまにSNSの活用なのかなと。

どうしても、昨日の17番議員もおっしゃってました、観光だけで寄せようというのはすごい難しい。でも、そういう、僕らもどっちかといったらアニオタで、サブカル大好き

で、アングラも好きでというタイプなので、1回行ったら何回も行ってしまふんです。そういったリピーターというのは結構ばかにならんなどというのは思っています。

今日、市長もされているマスクであったり、北岡部長もマスクをされていますけれども、ここ字が書いてあるんですよ。それって僕、昨日市長ともちょっとお話させてもらいましたけども、ぱっと見て気になったんです。気になって見に行ったら、ああ、あの柿の、「愛に飢えたら 柿、食べよ！」というのが入ってるんですよ。

これって、僕が気になったのは、恐らく気になった方たくさんいらっしゃると思うんですけども、それも一つの戦略かもしれない、という部分です。

ですから、やっぱり今後、橋本市どんどん表に出れる機会をつくってほしいなど。以前も提案したことがあるんですけども、将来は市民の方から動画コンテストとかもできた

らええなど。実際、自治体で市民から、市民とか携わる方から動画を集めて動画コンテストをやっている自治体ってたくさんあります。

それは恐らく私たちや市の職員が知らない、もっと橋本市のええところというのを目につけてくれるかもしれないという部分で、情報収集としてはすごい一つのいいツールになるのかなと。

今、インスタグラムでも結構、ハッシュタグ `kakeru_hashi` で相当な写真が集まっているようですけれども、やはり、そういった部分もどんどん、もっともっと表に出していただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

終わります。

○議長（土井裕美子君）13番 田中さんの一般質問は終わりました。

この際、10時30分まで休憩いたします。

（午前10時17分 休憩）